

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長 糖尿病・内分泌代謝内科副部長	大槻 朋子

＜関連部署＞

部署名	部署名
糖尿病・内分泌代謝内科	検査・栄養部門栄養管理

＜特色と概要＞

糖尿病治療の目標は血糖値を良好にコントロールすることにより、合併症の発症、増悪を予防し、健康な人と変わらない寿命を確保することである。そのためには、長期間、患者の生活全般にわたって介入することが必要になる。

糖尿病センターでは患者の長期にわたる療養をサポートするため、外来、入院にて活動を行っている。隔月に糖尿病センター運営委員会にて行い、方針の確認を行っている。具体的な役割を以下に挙げる。

- 外来での療養に関する患者サポート(フットケア外来、糖尿病透析予防指導)、慢性合併症の評価。
- 糖尿病教育入院中の患者指導(糖尿病教室、DVD教室)
- 市民啓発活動(生活習慣病教室、世界糖尿病デーりんくう健康フェスタなど)
- 血糖自己測定装置の精度管理、患者指導、運用
- 糖尿病療養指導に関わる人材の育成
- 学会発表による発信

＜実績＞

① 糖尿病外来患者の大血管合併症評価の促進

外来通院中の糖尿病患者における大血管合併症の早期発見・早期治療を目的に頸動脈エコー、ABI、心電図を年に1回評価することを目標としている。

2023年度検査件数 (件)

検査名	外来	入院	総計
心電図検査	11	4	15
超音波検査(断層撮影法)(頸動脈)	8	2	10
ABI	12	0	12

上記検査にて異常が認められた場合には循環器内科、脳神経外科に紹介しており、合併症の発見治療に有用である。引き続き大血管合併症の評価を継続し、更に施行率を高めていく必要がある。

② 糖尿病透析予防指導の状況

糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病腎症2期以上の症例について医師、栄養士、看護師が指導を行った場合算定可能であり、当院では糖尿病腎症早期予防指導という名称で通院患者の指導を行っている。指導件数は2017年以

降増加傾向にあったが、2022年度以降は減少し2023年度は1.6回/月となった。糖尿病腎症2期以上の患者で未指導の患者も多数存在しており、受診を勧めていく。

③ 入院患者の増加についての対策

2021年10月より妊娠関連糖代謝異常(妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠)の患者を当科入院にて血糖コントロールを施行。2023年度は92症例に関して加療を行っている。

● 院内および院外啓発活動

毎年世界糖尿病デーりんくう健康フェスタとして、市民啓発イベントを行っており、第7回世界糖尿病デー、りんくう健康フェスタを2023年11月12日(日)に3年ぶりの対面開催で行った。本年のテーマは『健康寿命をのばそう！～骨と筋肉と糖尿病～』であり、腎臓内科部長の重松隆先生に講演いただき、その他骨密度チェックやABI測定などの無料検査、フレイル度チェックの体力測定などを行った。96名の市民の参加があった。

● 血糖自己測定器の管理、運用に関して

昨年に引き続き血糖自己測定器について精度管理および患者説明を臨床検査技師にて施行した。

● 学会発表について、糖尿病関連の発表としては糖尿病学会近畿地方会にて1演題の発表を行った。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

新型コロナウイルス感染症が蔓延している間は糖尿病等内分泌疾患の患者が当センターの受診を避ける傾向があり、糖尿病教育入院の患者が減少していた。今年度5月に5類感染症移行後はそのような傾向が見られなくなり、診療体制も以前の状態に戻りつつある。また今年度は久しぶりに市民を招いてりんくう健康フェスタを実施することができた。来年度に向け、病診連携をすすめるために、糖尿病の合併症検査を近隣医が直接申し込めるようなシステムを構築中である。今後も、外来での紹介患者の受入数の増加や糖尿病教育入院を始めとした入院患者の増加を図っていきたい。